

# 数学：科学・技術を支える基盤科学

H22文部科学省委託調査「数学・数理科学と他分野の協働・協力推進に関する調査」

- 抽象化することで飛躍的な発想を可能とし、また現象に隠れた論理構造を明らかにすることで、これまでも真のブレークスルーを幾度ももたらしてきた。イノベーションを生み出す共通基盤技術としての期待

日本の企業における社会的ニーズ調査(2006年文部科学省科学技術政策研究所)  
数学をバックグラウンドに持つ人が研究チームにいますか:26%  
欧米のライバル企業にいますか:62%  
研究チームに将来必要ですか:65%  
あなたの研究に数学の貢献が必要ですか:62%

- 企業におけるR&Dに博士号取得者が圧倒的に少ない:国際競争力?
- 欧米における産業化との連携強化, 新興国における数学研究への投資拡大
- 始まった「拡がっていく数学・数理科学」の取り組み
- 社会的課題が複雑化・多様化し、問題の本質を解明する数学の必要性はますます増大. 科学・技術のみならず経済・社会活動の広範な領域において重要に.

国民の教養としての数学教育, 科学・技術の基礎学力となる数学基礎教育が, 全国のすべての地域において偏りなく、これまで以上に充実することが必要.

地方の教育研究環境の確保が必須

## 現状は？ 数学会のアンケート調査

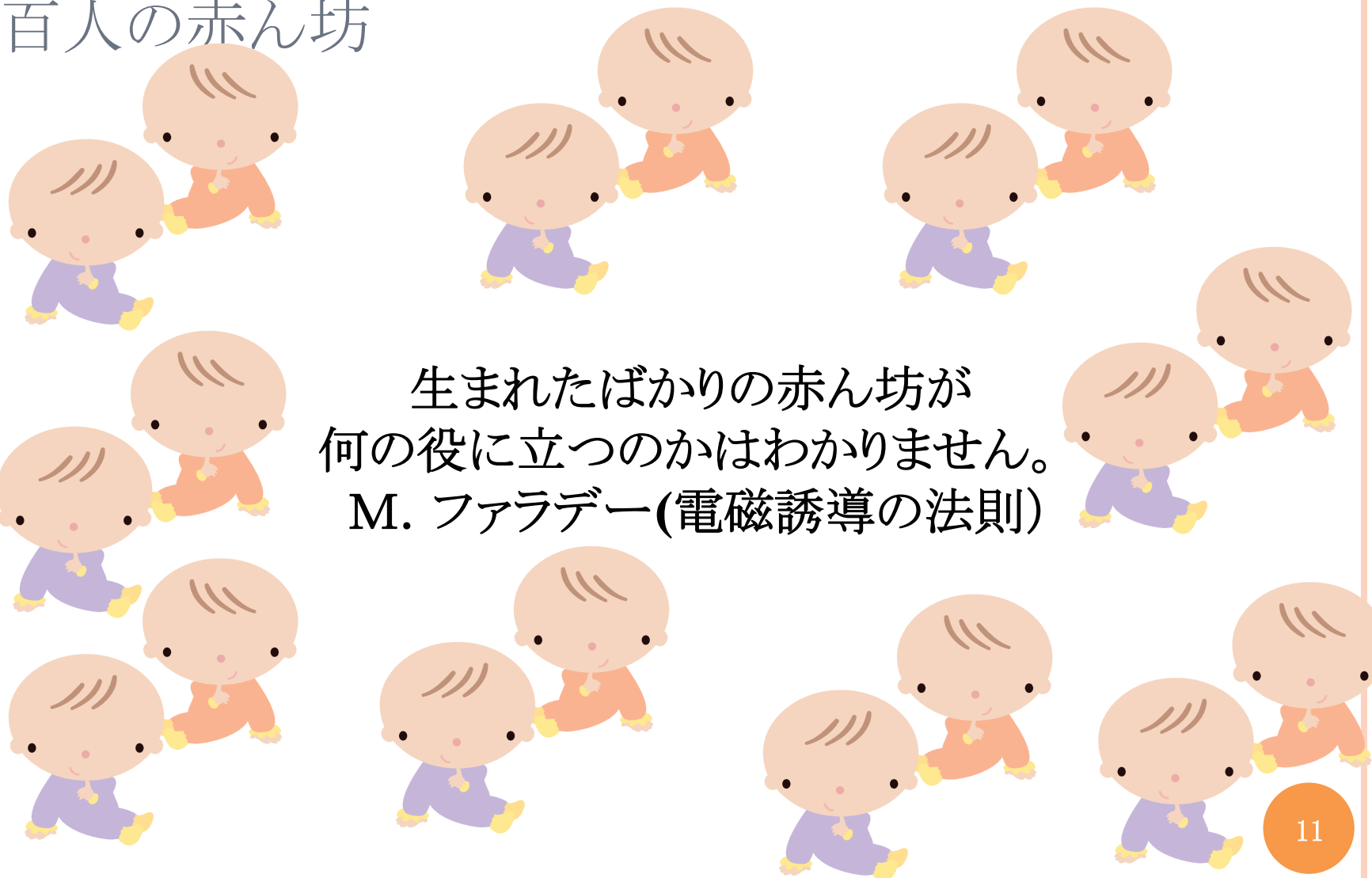
- 対象: 数学・数理科学教育研究組織
  - 「数学・数理科学教育研究活動について」
  - 「他分野や産業界との連携・協力について」
  - 「大学院における人材育成と進路状況について」
- 対象: 数学・数理科学大学院生(修士, 博士)
  - 「進路および他分野との連携」についての修士課程大学院生への調査
  - 「進路、他分野との連携、若手研究者支援」についての博士課程大学院生への調査

- 多くの大学で他分野・産業界との連携・協力には肯定的であり、数学力を持った人材の育成と社会への輩出への意欲をもっていること
- 大学間格差が広がり、地方の教育・研究は立ち行かなくなっている
- 大学院生たちは若手研究者として、また社会で活躍する人材として、広い興味と意欲をもっている
- 若手人材のキャリアパスが圧倒的に不足し、強い不安をもっている

地域格差のない教育を保障する安定的運営  
実行力ある助け合いの仕組み

10 大学理学部長会議の3つの提言: 基盤的経費の拡充, 科学研究補助金の拡充, 人材育成のための安定的な経費配分を

## 百人の赤ん坊



生まれたばかりの赤ん坊が  
何の役に立つのかはわかりません。  
M. ファラデー(電磁誘導の法則)

飛躍を生み出す土壌を豊かにし、一人一人の自由な価値観を大切に育てあげる

